

平成26年度 環境基本計画年次報告書 (平成25年度実績)

◆ 尾張旭市環境基本計画とは

尾張旭市環境基本条例に基づく計画で、本市の各種施策の環境面における基本的な方向を示す指針となるものです。今ある環境を将来の世代により良くしながら継承し、誰もが健康で快適な市民生活を営むために、市、市民・市民団体、事業者が協力し、環境に配慮した総合的な取組みを示すことを目的として平成19年3月に策定しました。計画では、「環境を考え ともにつくる 私たちのまち」を望ましい環境像とし、この環境像を実現するため5つの分野別目標と12の施策を掲げています。

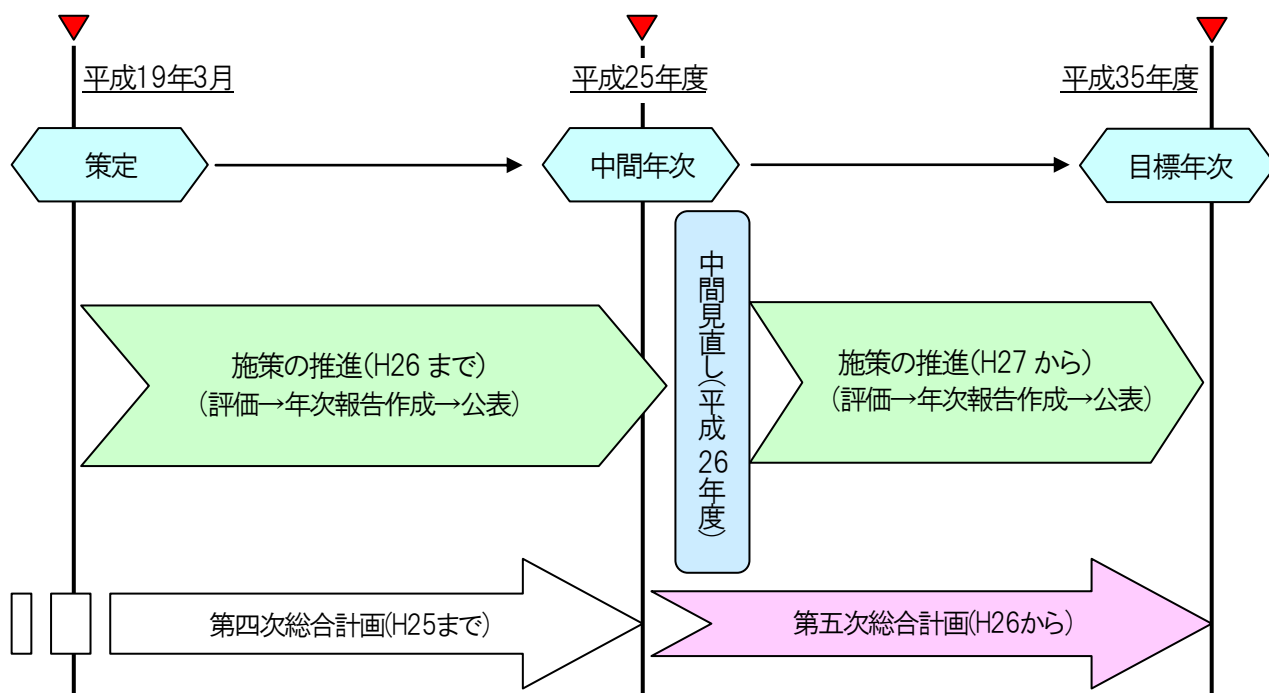
◆ 年次報告書とは

年次報告書は、尾張旭市環境基本計画の適正な進行管理を図るため、その年度に市が取り組んできた各施策の実施状況について、実績を踏まえた評価を行い取りまとめたもので、毎年度、公表しています。

◆ 計画の期間

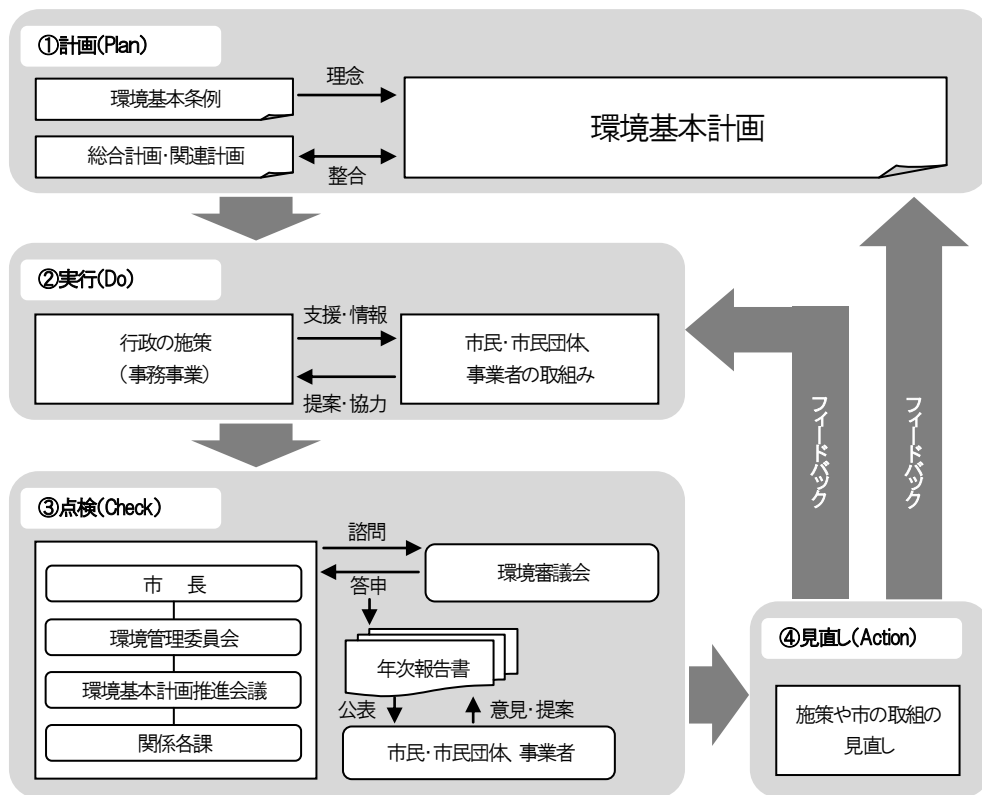
環境の保全及び創出にあたっては、長期的な視点に立つことが重要となります。このため、計画の期間は、平成35年度を目標年次とし、中間年次は、尾張旭市第四次総合計画の目標年次である平成25年度としています。

なお、この中間年次を迎える中、計画策定時からの環境や社会経済情勢の変化、そして、これまでの進捗状況や市総合計画を始めとした上位・関連計画の内容などを踏まえると、その見直しが必要な部分が生じてきています。このため、平成26年度に中間見直し(施策や指標の見直しなど)を行い、平成27年度以降にこれを適用することとしています。



◆ 計画の進行管理体制

市、市民・市民団体、事業者など、全ての主体が連携・協働のもと計画を着実に推進するため、環境マネジメントシステムの考え方(PDCAサイクル)を基本とした次のような推進体制によって進行管理を行い、計画に基づく取り組み状況を毎年、点検・評価し、公表します。



◆ 年次報告書の見方

◇「施策の進捗を見る指標と目標」の評価

H24実績値に対するH25実績値の状況を、目標値との比較を含めながら、次の区分に基づき評価しています。

「○」: 目標値を達成又は数値が改善 「△」: 数値に変化なし 「×」: 数値が悪化

◇「関連事務事業」の評価

各施策に関連する事業の、H25目標値に対するH25実績値の達成率の状況を、次の区分に基づき評価しています。

「◎」: 達成率が110%以上 「○」: 達成率が100%以上110%未満
 「△」: 達成率が70%以上100%未満 「×」: 達成率が70%未満

事業を実施した担当課等は、次の略号で示しています。

市活: 市民活動課	都整: 都市整備課	消防: 消防本部 総務課
産業: 産業課	土木: 土木管理課	学教: 学校教育課
環境: 環境課	下水: 下水道課	生涯: 生涯学習課
都計: 都市計画課	上水: 上水道課	図書: 生涯学習課図書館

◆ 各施策の実施状況

望ましい環境像の実現に向けて5つの分野別目標と12の施策を掲げ、各施策ごとに取り組みを進めています。これらを評価した結果、全33指標中、○(基準値に対し、数値が改善)が20件(61%)、△(数値に変更なし)が6件(18%)、×(数値が悪化)が5件(15%)となり、全体として前年度と同様の状況にあります。【評価無:2件】
 ※平成24年度実績 ○:22件(67%)、△:3件(9%)、×:6件(18%)【評価無:2件】

《分野別目標》(5)	《施策》(12)	《指標》(33)	《評価》		
			今回	前回	
1 学び広げるまちづくり	1-1 環境教育・環境学習を進める	1 環境について学んだことのある児童生徒の割合(%)	○	○	
		2 環境問題に関心を持って自ら学んでいる市民割合(%)	×	×	
	1-2 環境保全活動を進める	3 環境保全活動等に参加している市民団体数(団体)	△	△	
		4 環境保全活動参加者数(人)	△	△	
2 ごみのないまちづくり	2-1 ごみを減らす	5 市民一人一日あたりのごみ総量(g/人・日)	○	○	
		6 市民一人一日あたりの家庭系ごみ排出量(g/人・日)	○	○	
		7 事業系ごみ排出量(t/年)	○	○	
	2-2 ごみを生かす	8 家庭ごみに占めるリサイクルごみの割合(%)	△	○	
		9 環境事業センターにおけるリユース件数(件)	○	×	
	2-3 ごみを適正に処理する	10 不法投棄箇所数(箇所)	△	×	
		11 違法な焼却に関する苦情件数(件)	△	×	
	3 地域で地球を考えるまちづくり	3-1 地球温暖化を防ぐ	12 地球環境に優しい生活を送っている市民割合(%)	×	○
			13 代替エネルギーの利用公共施設数(箇所)	○	○
			14 公用車の低公害車普及率(%)	○	○
		3-2 地球規模の問題に取り組む	15 地球環境に優しい生活を送っている市民割合(%) (再掲)	×	○
4 自然とふれあうまちづくり		4-1 緑と水辺を守る	16 公共緑地面積(ha)	○	○
	17 民有緑地面積(ha)		△	△	
	18 ため池面積(ha)		○	○	
	19 農業振興地域における農地面積(ha)		×	○	
	4-2 緑に親しむ	20 緑・水に親しめる場所があると思う市民割合(%)	○	○	
	4-3 生き物に配慮する	21 緑地面積(ha)	○	○	
		22 緑被率(%)	○	○	
		23 ため池面積(ha) (再掲)	○	○	
5 暮らしやすい快適なまちづくり	5-1 安全で健康な暮らしを守る	24 快適な生活衛生環境だと思う市民の割合(%)	○	○	
		25 生活衛生環境に関する苦情件数(件)	×	×	
		26 エコドライブを心がけているドライバーの割合(%)	—	—	
		27 公共下水道普及率(%)	○	○	
		28 BODの矢田川での改善数値(mg/L以下)	○	○	
		29 BODの天神川での改善数値(mg/L以下)	○	○	
	30 水質を維持している主要ため池数(箇所)	○	○		
	5-2 快適でゆとりある都市空間をつくる	31 秩序とやすらぎを感じる街が形成されていると思う市民割合(%)	○	×	
		32 都市景観に満足している市民割合(%)	○	○	
		33 犬のふん・ごみのポイ捨てなどをしない環境マナーに満足している市民割合(%)	—	—	

施策1-1 環境教育・環境学習を進める

○施策の進捗を見る指標と目標 ※「目標値」が矢印のものは、その指標の方向性を示しています。

指標名		H17 実績値	H25 目標値	H35 目標値	H24 実績値	H25 実績値	評価
1	環境について学んだことのある児童生徒の割合(%)	100	100	100	100	100	○
2	環境問題に関心を持って自ら学んでいる市民割合(%)	12.7 (H16年度)	→	→	12.4	8.8	×

《現状》

「野外活動推進事業」や「学習支援事業」の実施によって、学校教育における環境教育や体験学習の支援を継続的に行うとともに、小学生を対象とした水生生物調査を実施し、環境保全への理解促進と意識高揚を図った結果、「環境について学んだことのある児童生徒の割合」は、H25目標値を達成しています。

一方、名古屋産業大学と連携を図りながら「あさひエコ大学」や「環境フォーラム」を開催するとともに、広報やホームページ等を通じて情報提供や啓発も行っているものの、「環境問題に関心を持って自ら学んでいる市民割合」は、前回と比べ3.6ポイントも減少し、当初のH17実績値からも大幅に下回った状態にあります。

環境問題が一般化し、各種報道等を通じて日常生活でも触れる機会が多数ある中、さらに市民意識の高揚を進めていくためには、学習機会の提供方法や啓発方法の見直しが求められているものと考えられます。

《今後の展開》

自然と共生した持続可能な社会をつかっていくためには、一人一人の自覚と行動が非常に重要であり、世代を越えて引き継がれていく必要があります。また、これを実現するためには、環境についての正しい知識を持ち、進んで行動できるような人材の育成が大変重要であると考えられます。

このため、平成26年度に名古屋市で開催される「ESD(持続可能な開発のための教育)に関するユネスコ世界会議」を良いきっかけとして、教育活動に視点を置いた環境教育や、学習者の学びに視点を置いた環境学習に関する事業を、より積極的に推進していきます。

○関連事務事業

事務事業コード	事業名	成果指標	H25 目標値	H25 実績値	評価	H26 目標値	担当
21-0103	野外活動推進事業【環境教育】	児童生徒参加率(%)	100	100	○	100	学教
		野外活動参加者の満足度(%)	90	91	○	90	
22-0101	学習支援事業(小学校)【環境教育】	バスを利用した学校の割合(%)	100	100	○	100	学教
22-0301	特色ある学校づくり推進事業【環境教育】	実施校の割合(%)	100	100	○	100	学教
		特色ある学校づくりに要する費用の支援割合(%)	80	100	◎	80	
24-0101	農政講座事業	講座の内容に対する理解度(%)	70	92	◎	70	産業
		講座に対する満足度(%)	85	97	◎	85	
24-0110	生涯学習フェスティバル開催事業【環境教育】	フェスティバルに参加した市民割合(%)	12	11	△	12	生涯
24-0104	公民館講座開催事業【環境教育】	講座申込者に対する受講者の割合(%)	90	87	△	90	生涯
		定員60%に満たない講座の数	12	9	◎	12	
24-0202	生涯学習情報提供事業【環境教育】	提供した情報数(教授リスト・団体リスト登録件数、掲載講座数)	600	626	○	600	生涯
45-0101	消費生活推進事業【環境教育】	消費生活展及び消費生活講座参加人数(人)	2,000	1,540	△	2,000	産業
52-0101	環境保全対策事業	講座参加人数(人)	80	87	○	80	環境
53-0103	河川水質の浄化推進事業	BOD計画目標値の達成率(%)	80	87	○	80	環境

施策1-2 環境保全活動を進める

○施策の進捗を見る指標と目標

指標名		H17 実績値	H25 目標値	H35 目標値	H24 実績値	H25 実績値	評価
3	環境保全活動等に参加している市民団体数(団体)	16	30	40	26	29	△
4	環境保全活動参加者数(人)	500	1,000	1,200	850	850	△

《現状》
 「市民活動支援事業」の実施によって、環境保全に係るボランティア団体やNPOの活動を支援するとともに、アダプトプログラムや公園愛護会制度の運用によって、市民による環境保全活動の支援を行っています。
 その結果、各種活動は恒例行事として定着しつつありますが、「環境保全活動等に参加している市民団体数」と「環境保全活動参加者数」は、H24実績値と比べて同等又は微増にとどまり、H25目標値には達することができていない状況にあります。
 このため、これらの市民活動が持続可能なものとなるように、支援の強化が求められていると考えられます。

《今後の展開》
 全ての人々が、環境への負荷の少ない行動を自ら進んで行う社会を目指すためには、自主的で積極的な環境保全活動が必要であり、これらの活動に対する支援も欠かせないものと考えられます。
 このため、環境教育や環境学習に関する事業の拡大や、ボランティア団体やNPOの活動内容のPRなどを通じて、環境保全活動への参加や環境保全団体の設立を促進していきます。

○関連事務事業

事務事業コード	事業名	成果指標	H25 目標値	H25 実績値	評価	H26 目標値	担当
52-0101	環境保全対策事業	市の施設における温室効果ガス排出量(tCO2)	2,300	2,280.6	△	2,300	環境
71-0101	地域コミュニティ活性化事業	地域活動(自治会等)への行政支援に不満のない市民割合(%)	75	75.2	○	75	市活
		地域活動が活発に行われていると思う市民割合(%)	20	18	△	20	
71-0301	市民活動支援事業【環境保全活動】	市民活動支援センター登録団体(団体)	50	54	○	55	市活
		市民活動支援センター利用人数(人)	2,200	2,477	◎	2,300	

施策1 ピックアップ事業

◇「あさひエコ大学」の開催

- ・環境に関する知識や行動を身につけるための学習活動の場として、名古屋産業大学の協力を得て、4回にわたって環境に関する講座を開催。
- ・講演内容:「CO2濃度測定器等を使ったおもしろ実験」、「都市計画マスタープランで未来を考える」、「これからの公共交通政策の課題」、「日本のこれからのエネルギー」

◇環境フォーラムの開催

- ・環境に対する意識啓発を図るため、講演や活動団体による報告等を名古屋産業大学との共催により毎年開催。
- ・平成25年度は、「ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会」の連携協力を得て、12月に名古屋産業大学文化センター大ホールで開催。
- ・講演内容:「尾張旭市の環境と防災について」、「尾張旭市の環境行政について」、「ESDに関するユネスコ世界会議について」、「生活環境圏を対象とするCO2濃度常時測定データと環境教育」、「子ども達の自然環境活動とデジタル化教育について」

施策2-1

ごみを減らす

○施策の進捗を見る指標と目標

指標名		H17 実績値	H25 目標値	H35 目標値	H24 実績値	H25 実績値	評価
5	市民一人一日あたりのごみ総量(g/人・日)	1,073	991	930	921	901	○
6	市民一人一日あたりの家庭系ごみ排出量(g/人・日)	832	775	730	743	729	○
7	事業系ごみ排出量(t/年)	6,993	6,938	6,570	5,320	5,149	○

《現状》

ごみの減量に関する市民意識の醸成により、「市民一人一日あたりのごみ総量」、「市民一人一日あたりの家庭系ごみ排出量」ともに毎年減少しており、H25目標値を達成しています。

また、「事業系ごみの排出量」についても、ごみ処理手数料の値上げや景気動向などといった要因はあるものの、H25目標値を大きく達成しています。

こうしたことから、この状態を維持又はさらに改善していくための、継続した意識啓発が求められていると考えられます。

《今後の展開》

生ごみ減量に関する補助事業を継続して実施するとともに、ごみ処理施設の見学会や小学生による「クリーンシティ推進ポスター・標語募集事業」を継続的に実施していくことで、さらなるごみの減量に対する意識醸成を促進していきます。

○関連事務事業

事務事業 コード	事業名	成果指標	H25 目標値	H25 実績値	評価	H26 目標値	担当
51-0101	クリーンシティ推進ポスター・標語募集事業	ポスターを提出した割合(%)	90	87.1	△	90	環境
		標語を提出した割合(%)	90	86.5	△	90	
51-0201	生ごみ処理補助事業	生ごみ処理機やコンポストを利用し、ごみ減量している市民割合(%)	10.5	7.5	△	8	環境

施策2-2		ごみを生かす					
○施策の進捗を見る指標と目標							
指標名		H17 実績値	H25 目標値	H35 目標値	H24 実績値	H25 実績値	評価
8	家庭ごみに占めるリサイクルごみの割合(%)	28.4	35	39	30	30.3	△
9	環境事業センターにおけるリユース件数(件)	641	900	950	129	214	○
<p>《現状》</p> <p>市民団体による資源ごみの回収や、環境事業センター内に常設している「リサイクル広場」での啓発、さらには小型家電の引き取りや市ホームページでの「あげます情報、ください情報」の提供などによって、「家庭ごみに占めるリサイクルごみの割合」は、年々増加傾向にあります。</p> <p>しかし、アルミ缶やペットボトルの普及によるリサイクルごみの軽量化によって、H25目標値には達することができていない状況にあります。</p> <p>また、「環境事業センターにおけるリユース件数」は、平成23年度より実施した「粗大ごみの有料化」の影響を受けて大幅に減少していますが、自転車やベビーカー等の子ども用品を対象とした「リユース品引取・提供事業」を開始した結果、前年度と比較して増加傾向に転じています。</p> <p>こうしたことから、この状態を維持又はさらに改善していくための、継続した意識啓発が求められていると考えられます。</p>							
<p>《今後の展開》</p> <p>「資源ごみ回収団体活動奨励事業」の運用や、リサイクル広場の充実によって、ごみのリサイクルを促進していきます。</p> <p>また、「夏休み親子リサイクル教室」の開催や、民間事業者と共同で開催する「エコクッキング教室」などによって、資源回収に関する意識啓発を引き続き促進していくとともに、公共施設から排出される剪定ごみの資源化についても推進していきます。</p> <p>なお、「環境事業センターにおけるリユース件数」については、尾張旭市第五次総合計画において目標値が見直されたため、環境基本計画における目標値についても、中間見直しの際に見直しを行います。</p>							

○関連事務事業

事務事業 コード	事業名	成果指標	H25 目標値	H25 実績値	評価	H26 目標値	担当
24-0401	読書奨励事業【本のリサイクル】	各事業の延べ人数(参加者数・応募者数)(人)	11,500	11,331	△	12,000	図書
51-0301	資源ごみ等処理事業	資源化率(%)	35	30.3	△	32	環境
51-0303	資源ごみ回収団体活動奨励事業	回収量(t)	3,200	3,381	○	3,200	環境
51-0902	リサイクル広場運営事業	リサイクル広場におけるリサイクル・リユース件数(件)	24,000	28,830	◎	29,000	環境
		リサイクル広場に持ち込まれた資源ごみ量(t)	260	285.6	○	290	
72-0103	市民祭開催事業【リサイクルマーケット】	市民祭への参加率(%)	75	67	△	75	産業

施策2-3 ごみを適正に処理する

○施策の進捗を見る指標と目標

指標名		H17 実績値	H25 目標値	H35 目標値	H24 実績値	H25 実績値	評価
10	不法投棄箇所数(箇所)	26	0	0	41	39	△
11	違法な焼却に関する苦情件数(件)	17	10	0	40	27	△

《現状》
 環境保全指導員によるパトロールや各種看板の設置、分別に関するパンフレットの配布などによって、ごみの適正排出の実現を図った結果、「不法投棄箇所数」、「違法な焼却に関する苦情件数」ともに、H24実績値よりも改善しましたが、それらの解消にまでは至っておらず、H25目標値には達することができていない状況にあります。
 このため、さらなる未然防止のための啓発や、パトロールの強化が求められていると考えられます。

《今後の展開》
 引き続き、市民ボランティアによる環境パトロールの協力を得ながら地域の環境監視を実施するとともに、ごみ処理施設の見学会を開催したり、広報やホームページ等による情報提供を実施したりすることで、ごみの適正処理に対する意識醸成を促進していきます。
 また、「尾張旭市良好で快適な生活環境を確保する条例」に基づき、空き缶・吸い殻等の投げ捨てるの禁止や、屋外焼却行為の制限を徹底するなど、より厳しい姿勢で対応を進めていきます。

○関連事務事業

事務事業コード	事業名	成果指標	H25 目標値	H25 実績値	評価	H26 目標値	担当
22-0101	学習支援事業(小学校)【環境教育】	バスを利用した学校の割合(%)	100	100	○	100	学教
51-0501	塵芥収集事業	市で収集している資源ごみの量(t)	3,500	2,935	△	18,238	環境
51-0902	リサイクル広場運営事業	リサイクル広場におけるリサイクル・リユース件数(件)	24,000	28,830	◎	29,000	環境
		リサイクル広場に持ち込まれた資源ごみ量(t)	260	285.6	○	290	

施策2 ピックアップ事業

- ◇まち美化大作戦の実施
 平成25年5月26日(日)に、市内全域を対象として市民や地域団体事業者等が、ごみゼロ運動(ごみ拾い)を一斉に実施。
 ・参加者数:約2,200名
 ・収集量:可燃ごみ6,770kg 不燃ごみ1,000kg
- ◇一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の策定
 市民アンケートや市民・事業者等との協働による策定会議の開催、パブリックコメントの実施などを経て、「一般廃棄物(ごみ)処理基本計画」を平成26年3月に策定。(計画期間:平成26年度から35年度)
- ◇リサイクル広場運営事業
 市環境事業センター内に、「資源ごみ回収広場」と「再利用品広場」、「リサイクル学習展示広場」で構成される「リサイクル広場」を、年末年始を除く毎日開設し、リサイクルやごみの減量についての市民意識を醸成。
 ・開設日:年末年始を除く毎日
 ・開設時間:午前9時から午後4時まで
 ・利用料金:無料

施策3-1 地球温暖化を防ぐ

○施策の進捗を見る指標と目標 ※「目標値」が矢印のものは、その指標の方向性を示しています。

指標名		H17 実績値	H25 目標値	H35 目標値	H24 実績値	H25 実績値	評価
12	地球環境に優しい生活を送っている市民割合(%)	46.4 (平成16年度)	→	→	67.3	59.8	×
13	代替エネルギーの利用公共施設数(箇所)	2	→	→	6	6	○
14	公用車の低公害車普及率(%)	26.8	70	100	56.1	58.5	○

《現状》

市営バス「あさび一号」をはじめとした公共交通の利用促進や、住宅用太陽光発電システム設置費補助制度の充実化を実施するとともに、各家庭や事業所への「緑のカーテン」の普及や、公用車への低公害車の導入を進めることで、地球温暖化防止に対する意識の高揚に取り組んでいます。

しかし、これまで順調に向上してきた「地球環境に優しい生活を送っている市民割合」は、H24実績値と比べて7.5ポイントも減少しています。このことについては、環境に配慮した生活スタイルの一般化等も影響していると考えられますが、現状の意識啓発方法での限界も感じるものとなっています。

このため、企業や店舗、行政による積極的な啓発活動によって、「節水」や「節電」、「マイバックの持参」や「詰め替え商品の購入」が一般化しつつある中、さらに市民意識の高揚を進めていくためには、情報提供方法や啓発方法の見直しが求められているものと考えられます。

《今後の展開》

低炭素社会の実現につなげていくため、住宅用太陽光発電システム設置費補助制度を継続していくとともに、公共施設への太陽光発電設備の設置や、公用車への電気自動車の導入などを進めていきます。

また、各家庭や事業所へのゴーヤの苗の配布事業を継続するとともに、地球環境保全のため日常生活の中でできることをPRすること等によって、「地球環境に優しい生活をおくる市民の割合」の向上につなげていきます。

○関連事務事業

事務事業コード	事業名	成果指標	H25 目標値	H25 実績値	評価	H26 目標値	担当
32-0101	公共交通網整備事業	市営バスの利用者数(人)	143,000	153,553	○	155,000	都計
		公共交通運行本数(民間事業者)(本)	490	438	△	450	
42-0202	消防車両購入事業	NOx・PM法排出基準適合車両割合(%)	100	100	○	100	消防
52-0101	環境保全対策事業	市の施設における温室効果ガス排出量(tCO2)	2,300	2,280.6	△	2,300	環境
52-0201	再生可能エネルギー利用推進事業	補助金交付世帯数(累計)	380	376	△	476	環境
		補助対象Kw数(累計)	1,451	1,402	△	1,882	
53-0101	自然林保全事業	森林病虫害防除率(%)	56	56	○	56	産業
53-0201	緑化助成事業	記念樹引換件数(件)	150	136	△	150	都整
53-0202	緑化推進事業	スポットガーデン総面積(m ²)	654	654	○	654	都整

施策3-2 地球規模の問題に取り組む

○施策の進捗を見る指標と目標 ※「目標値」が矢印のものは、その指標の方向性を示しています。

指標名		H17 実績値	H25 目標値	H35 目標値	H24 実績値	H25 実績値	評価
15	地球環境に優しい生活を送っている市民割合(%) (再掲)	46.4 (平成16年度)	→	→	67.3	59.8	×

《現状》

貴重な資源である水道水の有効利用や節水についての意識の向上を図るため、水道週間などの際に水道施設の見学会を実施するなど啓発活動を行っています。

また、各家庭で環境負荷の少ない行動をとっていただくため、「家庭版環境ISO事業」や「コソコソダイエットプラン事業」への参加者を募集するなどの取り組みを進めていますが、「地球環境に優しい生活を送っている市民割合」は、H24実績値と比べて大幅に減少しています。

このため、今一度、意識啓発の効果的な実施や、実施方策の見直しが求められていると考えられます。

《今後の展開》

本市の市民一人一日当たりの平均給水量は、全国平均や県平均と比較して低い水準にあるため、今後大幅な低減は見込めないものの、水の有効利用に関する啓発活動は継続して実施していきます。

なお、運用開始後年数が経過している「家庭版環境ISO事業」や「コソコソダイエットプラン事業」については、近年参加者数が伸び悩んでいるため、効果的なPR方法や取り組みやすい内容への変更等について検討していきます。

○関連事務事業

事務事業 コード	事業名	成果指標	H25 目標値	H25 実績値	評価	H26 目標値	担当
33-0301	水の有効利用促進事業	節水行動をしている市民の割合(%)	85	78	△	—	上水
		一人一日平均給水量(L)	282	284	○	282	
34-0407	浄化槽雨水貯留施設転用補助事業	補助件数(件)	5	2	×	3	下水
52-0101	環境保全対策事業	市の施設における温室効果ガス排出量(tCO2)	2,300	2,280.6	△	2,300	環境

施策3 ピックアップ事業

◇住宅用太陽光発電システム設置費の補助推進事業

市民のクリーンエネルギーの利用を促進するため、住宅用太陽光発電システム設置に係る必要の一部を補助。

- ・補助金額(最大4kwを上限)
市内業者で施工した場合 1kwあたり3万円(上限額12万円)
市外業者で施工した場合 1kwあたり2万円(上限額8万円)
- ・補助実績:121件(190件から抽選)
市内業者施工分 22件(2,561,000円)
市外業者施工分 99件(7,311,000円)

◇緑のカーテン事業

▽市民・事業所へのゴーヤ苗配布

イベント時などにおいて引換券を配布し、市内協力店舗で苗と交換し、各家庭や事業所で「緑のカーテン」を作成。

- ・苗引換券配布実績:6,800枚(平成24年度:5,600枚)
- ・苗配布実績:7,012個(平成24年度:5,532個)

▽公共施設での緑のカーテン事業

- ・環境負荷軽減への取り組みを広く市民や事業者に啓発し、市を挙げて省エネルギーへの取り組みを推し進めるため、市内公共施設(62施設 ※平成24年度:48施設)で緑のカーテンを設置。

施策4-1 緑と水辺を守る

○施策の進捗を見る指標と目標

指標名		H17 実績値	H25 目標値	H35 目標値	H24 実績値	H25 実績値	評価
16	公共緑地面積(ha)	494	495	500	502	503	○
17	民有緑地面積(ha)	18.0	18.0	18.0	17.4	17.4	△
18	ため池面積(ha)	38.7	38.7	38.7	38.7	38.7	○
19	農業振興地域における農地面積(ha)	123	120	116	123	110	×

《現状》

「都市計画マスタープラン」や「緑の基本計画」に基づき、街区公園や矢田川散歩道の整備などを進めた結果、「公共緑地面積」は、H24実績値と比べて若干向上しています。

しかし、「民有緑地面積」については、土地区画整理事業の進捗や生産緑地の制限解除などに伴って、H25目標値を下回っており、今後も宅地化の進行によって緑地の確保は困難であると予測されます。

また、「農業振興地域における農地面積」については、「農業振興地域整備計画」の全体見直しによる面積精査の結果、H25目標値を下回ることとなりましたが、都市化や農家の分承が進まないことや、農地転用が進んだことも原因の一つであると考えられます。

《今後の展開》

土地区画整理事業区域内の公園整備や矢田川散歩道の整備を進め、緑地の確保を図っていきます。また、主要なため池の一つである濁池が、安全で豊かな自然とふれあえる憩いの場となるように、現在の環境に配慮しながら必要最小限の整備を進めていきます。

さらに、農地の保全を図るため、耕作放棄地解消のための経費や、農協が実施する景観形成作物の栽培経費を補助するとともに、「農業まつり」や「田んぼアート」、「田んぼイルミネーション事業」を通じて、農業への理解促進につなげていきます。

○関連事務事業

事務事業コード	事業名	成果指標	H25 目標値	H25 実績値	評価	H26 目標値	担当
53-0101	自然林保全事業	森林病虫害防除率(%)	56	56	○	56	産業
53-0104	保存樹等保全助成金	適正に管理されている保存樹等の割合(%)	100	100	○	100	都整
53-0301	濁池整備事業	事業進捗率(%)	75	42	×	55	産業
53-0302	矢田川散歩道整備事業	市内の水辺空間を利用したことがある市民割合(%)	60	50.3	△	60	都整
63-0101	農地保全事業	秋の花の栽培面積(ha)	0.45	0.45	○	0.45	産業
		農地に占める景観形成面積の割合(%)	0.42	0.41	△	0.42	
63-0301	ふれあい農園運営事業	農園利用者数(延べ)(人)	2,630	2,630	○	2,795	産業
63-0302	地域農業活性化事業	地域特産物出荷量(t)	22	16	×	22	産業
		地域特産物数(品目)	2	2	○	2	
72-0105	農業まつり支援事業	農業まつりへの参加率(%)	10	11	○	10	産業

施策4-2

緑に親しむ

○施策の進捗を見る指標と目標 ※「目標値」が矢印のものは、その指標の方向性を示しています。

指標名		H17 実績値	H25 目標値	H35 目標値	H24 実績値	H25 実績値	評価
20	緑・水に親しめる場所があると思う市民割合(%)	81.2 (平成16年度)	→	→	87.3	88.8	○

《現状》

都市化に伴って森林や農地が減少するなか、ため池を利用した環境整備や山辺の散歩道、そして矢田川散歩道の整備を進めるとともに、市民活動団体によってこれらの保全や有効活用に関する取組みが進められた結果、「緑・水に親しめる場所があると思う市民割合」は、H24実績値よりも1.5ポイント向上し、当初のH17実績値よりも大幅に改善しています。

こうしたことから、この状態を維持又はさらに改善していくための、継続した意識啓発が求められていると考えられます。

《今後の展開》

市民との協働によって、土地区画整理事業区域内の公園整備を進め、緑に親しむことのできる空間確保を推進していきます。

また、自然と触れ合う機会をさらに提供するため、各種イベントを継続的に実施するとともに、市民団体が実施する事業についても積極的に支援していきます。

○関連事務事業

事務事業 コード	事業名	成果指標	H25 目標値	H25 実績値	評価	H26 目標値	担当
21-0103	野外活動推進事業	児童生徒参加率(%)	100	100	○	100	学教
		野外活動参加者の満足度(%)	90	91	○	90	
31-0201	公園維持管理事業	公園に満足している市民割合(%)	30	25.8	△	30	都整
31-0202	都市公園新設事業	一人当たり都市公園面積(m ² /人)	9.1	9.1	○	9.1	都整
53-0102	吉賀池湿地保全事業	観察路整備率(全体事業費ベース)(%)	100	100	○	100	産業
		来場者数(人)	1,000	648	×	1,000	
53-0201	緑化助成事業	記念樹引換件数(件)	150	136	△	150	都整
53-0202	緑化推進事業	スポットガーデン総面積(m ²)	654	654	○	654	都整
53-0302	矢田川散歩道整備事業	市内の水辺空間を利用したことがある市民割合(%)	60	50.3	△	60	都整

施策4-3

生き物に配慮する

○施策の進捗を見る指標と目標

指標名		H17 実績値	H25 目標値	H35 目標値	H24 実績値	H25 実績値	評価
21	緑地面積(ha)	512	513	518	520	520	○
22	緑被率(%)	24.3	24.4	24.6	24.7	24.7	○
23	ため池面積(ha)(再掲)	38.7	38.7	38.7	38.7	38.7	○

《現状》

街区公園や矢田川散歩道の整備などによって、生物の生育・生息空間となる「緑地面積」や「緑被率」は、現状を維持しており、H25目標値を僅かではありますが上回った状態にあります。
また、吉賀池の貴重な湿地植物の保護を行うとともに、アライグマなどの外来生物の駆除を進め、本来の生態系等に対する被害防止に努めています。

《今後の展開》

今後も残された緑地や水辺の保全を推進していくとともに、外来生物の駆除によって生態系の保全にも取り組んでいきます。
また、シラタマホシクサやサギソウなどの貴重な湿地植物が生育する吉賀池湿地の保全にも取り組み、一般公開への参加者を増やすことによって、自然環境の保全意識の高揚につなげていきます。

○関連事務事業

事務事業 コード	事業名	成果指標	H25 目標値	H25 実績値	評価	H26 目標値	担当
53-0102	吉賀池湿地保全事業	観察路整備率(全体事業費ベース)(%)	100	100	○	100	産業
		来場者数(人)	1,000	648	×	1,000	
53-0301	濁池整備事業	事業進捗率(%)	75	42	×	55	産業
54-0202	生活環境向上支援事業	有害鳥獣捕獲頭数(頭)	7	9	△	7	環境

施策4 ピックアップ事業

◇吉賀池湿地保全事業

- ・貴重な植物等が生息する吉賀池湿地を保全するため、維持管理と植生調査等を実施。
- ・湿地内の施設修繕(井戸の浚渫、観察路の更新)などを実施。
- ・市民に自然と触れ合う場を提供するため、一般公開を開催。
- ・平成25年度は、初めて春にも一般公開を実施し、春、夏、秋、晩秋と季節ごとに公開。



◇田んぼイルミネーション事業

- ・一般公募による18組の親子と旭中学校の生徒有志22人が、田んぼに太陽光パネルと充電電池、LEDが入ったペットボトル「ユメの苗(ペットボトル)」を植え、本市のイメージキャラクター「あさびー」を描く事業を実施。

施策5-1 安全で健康な暮らしを守る

○施策の進捗を見る指標と目標 ※「目標値」が矢印のものは、その指標の方向性を示しています。

指標名	H17 実績値	H25 目標値	H35 目標値	H24 実績値	H25 実績値	評価
24 快適な生活衛生環境だと思う市民の割合(%)	56.1 (平成16年度)	→	→	69.5	73.3	○
25 生活衛生環境に関する苦情件数(件)	966	900	800	1,148	1,127	×
26 エコドライブを心がけているドライバーの割合(%)	30.7 (平成16年度)	→	→	30.6 (平成22年度)	30.6 (平成22年度)	—
27 公共下水道普及率(%)	49.1	60.0	75.0	63.7	65.0	○
28 BODの矢田川での改善数値(mg/L以下)	14	8.0	→	5.7	5.2	○
29 BODの天神川での改善数値(mg/L以下)	12	8.0		6.3	5.8	○
30 水質を維持している主要ため池数(箇所)	7	7	7	7	7	○

※指標26は、自家用車へのアイドリングストップ機能の標準装備化の進展により平成24年度の調査対象外となったため、平成22年度の数値を掲載し、評価をしていません。

《現状》

公共下水道の整備や生活排水への配慮などによって、「BODの矢田川(天神川)での改善数値」はH24実績値よりも向上し、H25目標値よりも大幅に改善しています。
その結果、「快適な生活衛生環境だと思う市民の割合」もH24実績値よりも向上し、引き続き高い水準を維持しています。
一方、「生活衛生環境に関する苦情件数」は依然として多く、H24実績値よりも若干改善されたものの、H25目標値とは乖離した状況にあります。
高齢化の進展や地域コミュニティの変化等によって、今後もこの傾向は続く予想されるため、継続した啓発やパトロールの実施等が求められていると考えられます。

《今後の展開》

水質の保全や周辺環境の改善に向け、公共下水道の整備や合併処理浄化槽の設置促進などに取り組むとともに、主婦層に委嘱した「生活排水クリーン推進員」と協力しながら、日常生活における配慮の依頼や、各種料理教室での啓発に取り組んでいきます。また、市民ボランティアの協力を得ながら、地域の環境監視に取り組むとともに、関係機関や近隣自治体との連携によって、地下水や土壌の調査、事業所への指導などにも取り組んでいきます。
さらに、公共交通網の整備や自転車等駐車場の維持管理を実施することで、自動車に頼らないまちづくりを進めるとともに、生活道路周辺の騒音防止や安全確保を図るため、幹線道路の整備にも引き続き取り組んでいきます。

○関連事務事業

事務事業コード	事業名	成果指標	H25 目標値	H25 実績値	評価	H26 目標値	担当
32-0101	公共交通網整備事業	市営バスの利用者数(人)	143,000	153,553	○	155,000	都計
		公共交通運行本数(民間事業者)(本)	490	438	△	450	
32-0401	霞ヶ丘線整備事業	特定時間帯における東西通過所要時間(分)	10	10	○	10	都計
		白鳳小学校北西交差点から雨池南交差点までの通行距離(m)	1,870	1,870	○	1,870	
34-0101	污水管渠整備事業	管渠整備率(%)	80	80	○	82	下水
34-0102	取付管設置事業	取付管設置率(%)	100	91	△	100	下水
53-0103	河川水質の浄化推進事業	BOD計画目標値の達成率(%)	80	92	◎	80	環境
54-0203	合併浄化槽設置促進事業	累計補助件数(件)	113	113	○	118	環境
54-0301	生活環境保全事業	公害苦情解決率(%)	95	96.6	○	97	環境

施策5-2

快適でゆとりある都市空間をつくる

○施策の進捗を見る指標と目標 ※「目標値」が矢印のものは、その指標の方向性を示しています。

指標名		H17 実績値	H25 目標値	H35 目標値	H24 実績値	H25 実績値	評価
31	秩序とやすらぎを感じる街が形成されていると思う市民割合 (%)	87.5 (平成16年度)	→	→	90.2	90.4	○
32	都市景観に満足している市民割合 (%)	76.0 (平成16年度)	→	→	82.4	84.0	○
33	犬のふん・ごみのポイ捨てなどをしない環境マナーに満足している市民割合 (%)	38.9 (平成15年度)	→	→	49.1 (平成22年度)	49.1 (平成22年度)	—

※指標33は市民環境意識調査で実施したアンケートの設問を指標としているため、基準値は平成15年度の指標としており、平成24年度の調査対象外となったため、平成22年度の数値を掲載し、評価をしていません。

《現状》

歩道や駅前広場の整備、屋外広告物の適正化などを進めた結果、「秩序とやすらぎを感じる街が形成されていると思う市民割合」と「都市景観に満足している市民割合」は、H24実績値よりも向上し、当初のH17実績値よりも改善されています。

また、各種パトロールや「尾張旭市良好で快適な生活環境を確保する条例」に基づく指導の実施などによって、「犬のふん・ごみのポイ捨てなどをしない環境マナーに満足している市民割合」もH17実績値と比べ高くなっています。

こうしたことから、この状態を維持又はさらに改善していくための、継続した意識啓発が求められていると考えられます。

《今後の展開》

駅のバリアフリー化を進めるとともに、未整備地区での基盤整備や老朽化した施設管理のあり方などの検討を進めることにより、今後も快適でゆとりある都市空間の創出に努めていきます。

また、飼い主のいない猫によるふん害に対応するため、避妊・去勢手術を施してこれ以上増えないようにし、一代限りの命を全うするまで地域で衛生的に管理をする「地域ねこ活動」への支援についても積極的に実施していきます。

○関連事務事業

事務事業コード	事業名	成果指標	H25 目標値	H25 実績値	評価	H26 目標値	担当
32-0301	市道南栄晴丘1号線歩道整備事業	歩道整備率 (%)	100	100	○	—	都整
32-0302	歩道バリアフリー推進事業	段差解消を施工した累計箇所数 (箇所)	282	279	△	286	土木
31-0303	都市景観啓発事業	都市景観に満足している人の割合 (%)	83	84	○	83	都計
32-0508	生活道路維持管理事業	道路管理に関する苦情要望対応率 (%)	100	100	○	100	土木
43-0303	あんしん歩行エリア整備事業	整備率 (%)	53	49	○	60	都整
54-0202	生活環境向上支援事業	雑草除去苦情件数 (件)	170	167	○	170	環境
54-0301	生活環境保全事業	ふん害に関する苦情件数 (件)	4	14	×	4	環境

施策5 ピックアップ事業

◇あんしん歩行エリア整備事業

三郷駅周辺地区の一部の区域を「あんしん歩行エリア地区」と定め、交通事故を抑制するために歩道設置や交通安全施設の整備を行い、道路利用者の安全安心な通行を確保。

・歩道設置や側溝の有蓋化により、歩道空間の整備を実施。

※ 平成15年度から22年度: 印場・瑞鳳地区(約143ha)の整備を実施

※ 平成22年度から: 三郷地区(約11ha)の整備を実施中



みなさまのご意見・ご感想をお寄せください！アイデア募集！

尾張旭市では、市民・市民団体、事業者のみなさまからの声を環境行政に反映させていただくため、この環境基本計画年次報告書の内容について、意見・感想を募集しています。

それぞれの取組みが、より良い方向に進めるようなアイデア、感想、チョット言いたいんだけど・・・といったこと、また、年次報告書の内容全般について等、何でもかまいません。

1 意見等の締切日
平成27年2月4日（水）

2 意見等の提出先及び提出方法

(1) 提出先

尾張旭市役所 環境課

(2) 提出方法

ア 郵送の場合

〒488-8666 尾張旭市東大道町原田2600番地1

（住所は書かなくても届きます。）

イ FAXの場合

0561-52-0831

ウ 電子メールの場合

kankyou@city.owariasahi.lg.jp

※様式は自由です。なお、最終頁に参考様式を掲載していますので、ご利用ください。また、意見等を提出の際には必ず住所・氏名・年齢をご記入ください。なお、電話での意見は受け付けませんのでご了承ください。

※お寄せいただいた意見等は、翌年度の年次報告書作成の参考にさせていただくとともに、その意見に対する市の考え方について、ホームページなどでの公表を予定しています。（意見部分のみ）

※ご記入いただいた個人情報については、意見等のとりまとめ以外の目的には使用しません。

3 問い合わせ先

尾張旭市役所 環境課 環境係 TEL：0561-76-8134（直通）



